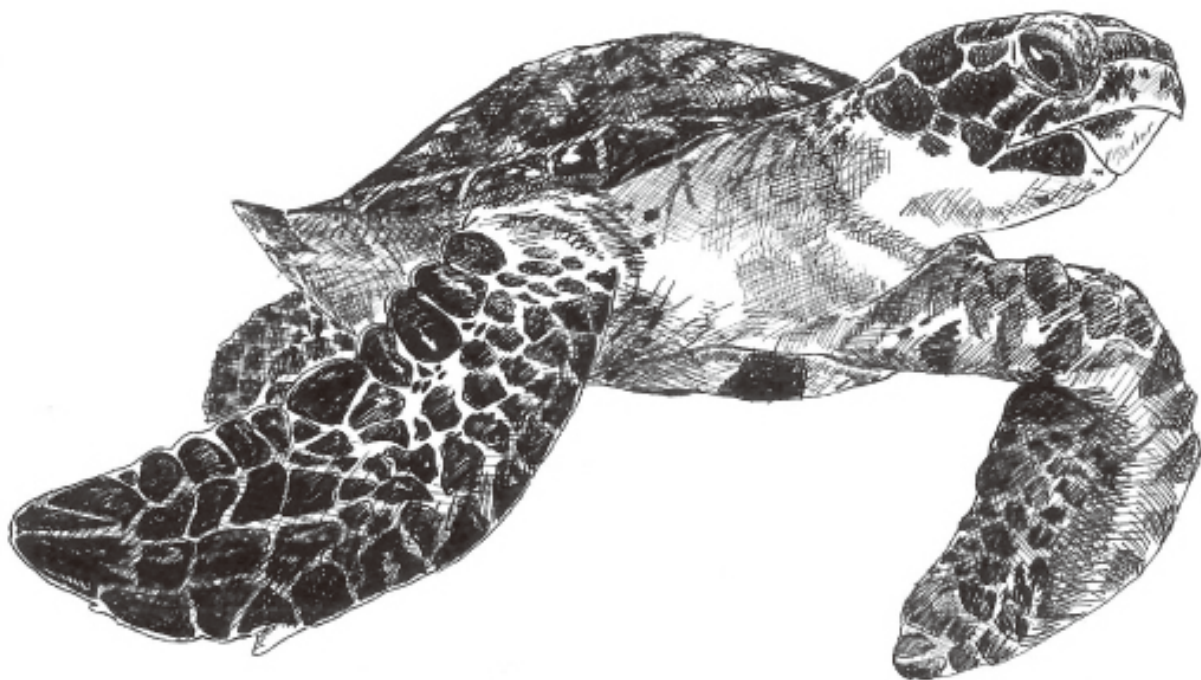




# Marine Turtler

マリンタートル

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会機関誌  
第20号





## 表紙の絵

もりもとようこ

### 森本陽子様

今号の表紙の絵は山口県にお住まいの森本陽子様のイラストです。画家ではなく海技士(航海士)を目指されていて、航海実習中はイルカ、クジラや海鳥はもちろんウミガメにも出会えるそうです!南方実習の際には憧れのタイムイを探したいとの事。素敵なイラストをありがとうございました。

# 表紙の絵を募集しています!

皆様から表紙の絵を大募集しています。可愛いイラスト、リアルなウミガメ、ウミガメをモチーフにしたデザイン等々、ウミガメに関するものでしたらどんなものでも構いません。ウミガメを見る機会のある方や、日頃から深くウミガメに関わりのある方は、ぜひ一度描いてみてください。皆様からの素敵な絵をお待ちしております。

- サイズ: B5
- 色: 自由。(仕上がりはモノクロになります。)
- 期限: 〆切はありませんが、次号の掲載をご希望の方は、お早めをお願いします。
- 応募方法: 大阪事務局に郵送又はメールでお送り下さい。
- 送付先: 〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302  
日本ウミガメ協議会 マリントートルー編集部  
※メールの場合は [info@umigame.org](mailto:info@umigame.org) まで  
件名に「マリントートルー表紙」と明記の上お送り下さい。

会報の名称マリントートルー(Marine Turtler)は、英和辞書には載っていません。つまり、教育的にはあまり相応しい英語とは言えません。ただし、米国では、最近ウミガメ関係者をこう呼ぶことがあります。ウミガメを守りたい人や、ウミガメを研究したい人、立場上仕事でウミガメに関わるようになった人、ウミガメが好きの人など、ウミガメに関わる全ての人を、我々はマリントートルーと呼ぶことを提唱したいと思います。

Marine  
**Turtler**

# Contents

うみがめニュースレターのご案内

ウミガメ基礎講座19	3P
「ウミガメの食事」 岡本 慶	
マリンタートラー列伝	4P
「速水政夫さんをしのんで」 亀崎 直樹	
第25回日本ウミガメ会議 奄美大島会議を終えて 興 克樹	5P
第26回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉のご案内	6P
24年度事業報告	7P
24年度決算報告	8P
近況報告	
黒島研究所の研修を終えて～親子2代にわたる研修～ 藪田 美玖	9P
交通事故にあった母ガメの話し 米須 邦雄	10P
高知県カメ宴会 渡辺 紗綾	11P
もしもカメ屋さん♪カメ屋さんよー♪ ～はく製コレクターを訪ねて～ 若月 元樹	12P
日和佐うみがめ博物館カレッタ 開館30周年記念シンポジウム 田中 宇輝	13P
ご寄付を頂いた方々&うみがめニュースレター & Seaturtle goods shop	14P
STSmembers募集中! & STSmembers更新手続きについて	
編集後記	

## 「ウミガメの食事」

独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所 岡本 慶

強烈な寒波の到来によって、例年にも増して寒い今年の冬、こんな時はこたつに入って温かい鍋を囲むのが一番です。鍋とひと口に言っても、いろいろな種類があり、しゃぶしゃぶ、すき焼きなど肉を使ったものと、たら鍋、フグちり、カキの土手鍋など魚介を使ったものに大きく分けられます。そして、それらには必ず様々な野菜が入っています。つまり我々人間は、動物も植物も食べる雑食性というわけです。ではウミガメたちはどうでしょうか。答えは「種によって異なる」です。つまり、肉食性のものもいれば、草食性のものもいるのです。では詳しく紹介していきます。

まず、アカウミガメは、ヤドカリなどの甲殻類や貝類、ヒカリボヤやサルパなどの浮遊性のホヤの仲間を主に食べています。タイマイはサンゴ礁のすき間に生息するカイメンと呼ばれるスポンジのような動物を、オサガメはクラゲ類のほか、ヒカリボヤやサルパなどを、ヒメウミガメは甲殻類やホヤ類などの小型の無脊椎動物を、ケンプヒメウミガメはカニを中心とした甲殻類や軟体動物を、ヒラタウミガメはソフトコーラルと呼ばれるサンゴの仲間やナマコなどの柔らかい無脊椎動物をそれぞれ主に食べており、その大半が肉食性であることがわかります。一方で、アオウミガメとクロウミガメは、ところてんの材料となるテングサなどの海藻や、アマモなどの海草を食べる草食性の動物です。なお、アオウミガメの中には、海藻ばかりを食べるものと海草ばかりを食べるもの、それら両方を食べるものがあることが知られています。それは海藻や海草の生えている量によって異なり、基本的には生えている量が多いものを食べ、どちらも少ない環境では両方を食べているようです。それらを分解するのに必要な細菌が異なることから、栄養を効率良く吸収するための適応と言えるでしょう。

このようにウミガメは種によって食べるものが異なっており、同じ種の中でも、棲んでいる環境によって食べているものが異なっていたりするので。一般に、同じ仲間の異なる種が、似たような環境に生息していながら、異なるエサを食べることは「食い分け」と呼ばれます。一方で、同じ仲間の異なる種間

で、生息環境が異なることは「棲み分け」と呼ばれます。これらはどちらもそれぞれの種が生き残るために競争を避けた結果と考えられています。ウミガメの場合、種間で食性が異なっていますが、種によっては、主とする生息環境も異なっています。アカウミガメやヒメウミガメ、ケンプヒメウミガメは砂泥域や岩礁域、アオウミガメやヒラタウミガメは浅海域、タイマイはサンゴ礁域、オサガメは外洋域をそれぞれ主な生息域としています。このように棲んでいる場所が様々であることから考えれば、ウミガメ類は種間で棲み分けをしていると考えることもできます。しかし、場所によっては、浅いところにも砂地が広がっていたり、岩場があったりしますし、サンゴ礁と岩礁が近くにあってそこに海藻が生えていることもあります。そうした環境においては、エサが同じであれば、競争が起こることが予想されます。そのため、同じような環境で出会っても異なるエサを主食とすることで、競争を避けていると考えれば、彼らは食い分けをしているとも考えられるのです。

ここまで取り上げてきた食い分けですが、例外があります。それはふ化後しばらくの幼少期です。ヒラタウミガメを除きウミガメ類は、ふ化後しばらくの間、外洋を漂流する生活を送ると言われています。その間の食性についてはよくわかっていませんが、外洋域には藻場がないことや遊泳力が低いことから推察すると、浮遊生物を食べていると考えられます。よって、前述の食い分けは、ある程度成長してから起こるもので、幼少期における食性は必ずしも成長した個体と同じではないものと考えられます。子供の頃あまり好まなかった鍋料理も、今ではお酒を片手に箸がどんどん進みます。私たちの「食性」も成長とともに変化が見られるという点では、ウミガメたちと共通なのかも知れません。

### 「速水政夫さんをしのんで」

亀崎 直樹

和歌山県新宮市の王子が浜でアカウミガメの保護活動をされていた速水政夫さんが2014年の5月に亡くなられた。88才だった。

速水さんと初めて話をしたのは1998年の頃だったと記憶している。協議会事務局に電話をかけてきた速水さんは怒っていた。この頃、私はしょっちゅう怒られていた。子ガメ放流会のことである。「放流会を目的とした子ガメや卵の保護はいけない」と主張していたことは事実である。ところが話は短絡化されて「放流会はいけない」となり、それでカメを愛している方々とすったもんだしてきた歴史がある。心と科学の言い争いである。その都度、フレンジーの持続時間の話や走光性の話をして、納得してもらえる人には納得してもらっていた。

しかし、納得してもらえない人が何人かいた。その急先鋒が速水さんであった。王子が浜で保護した卵をふ化場に移し、出てきた子ガメを近所の幼稚園の子供たちに放流してもらい喜ばれていた。子供を喜ばせるために、明らかにカメにとってマイナスな行為を、しかも保護活動という行いを問題視していた我々とは、当然、対立したのである。

速水さんは我々の考えに激怒して、私に電話をしてくれた。その時の電話では理解してもらえず、電話を切られた覚えがある。それからしばらくして南紀に行くことがあった。一度、速水さんを訪ねてみようと思い、アボなしで新宮のご自宅にうかがったことがある。恐る恐るであったが、速水さんは奥さんとともに歓待してくれた。季節は冬だったが、速水さんに王子が浜を案内してもらった。王子が浜は外洋に面した荒れる砂浜だった。波が集落を襲ったのだろう。防潮林は厚く残され、さらにかなり高い防潮堤が半安定帯の植生あたりをつぶして作られていた。確かに、このように波が荒く高い砂浜はウミガメの卵が流される確率が高いのだろう。何となく速水さんが卵を移植せざるを得なくなる気持ちが理解できた。

王子が浜から堤防を隔てたところに速水さんがつくったふ化場があった。ふ化場の脇にあった椅子にすわり、速水さんは昔話を語ってくれた。王子が浜のカメの卵は「やくざ」が獲って行ったという話、昔

は子ガメはから揚げにして食べられてた話、そして保護を始めると嫌がらせを受けた話。速水さんと口論をしたのは私だけではなく、いたるところでトラブルを起こす人ではあったが、そこには彼にとっての正義があったことがわかった。

それ以来、南紀に足を運ぶたびに速水さんを訪ねた。速水さんはいつも喜んでくれて、必ず帰り際には、新宮の銘菓、香梅堂の「鈴焼」を土産に持たせてくれた。これが美味しい。新宮の王子が浜には、目の悪い正義感の強いマッサージ師がウミガメを守っていたことを私たちは忘れてはいけない。速水さん。あの世ではあんまり喧嘩をしないようにしてくださいね。合掌。

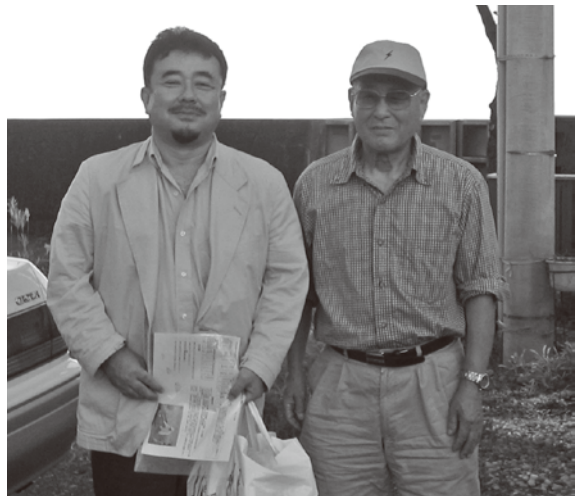


写真 2006年10月に新宮にて写した写真と王子が浜

## 第25回日本ウミガメ会議 奄美大島会議を終えて

第25回日本ウミガメ会議実行委員会 奄美海洋生物研究会 興 克樹

奄美大島会議にご参加いただき誠にありがとうございました。

奄美大島会議は、第25回の記念となる会議でもあり、また松沢新会長体制のスタートを飾る重要な会議ということで、日本ウミガメ協議会の皆さんと共に実行委員会一同、出来る限りの準備をさせて頂きました。不備な点多々あったと思いますが、多くの皆様に参加して頂き、感無量でございます。

2013年1月24日に鹿児島県の離島では初となる地元大島高校のセンバツ出場決定の祝砲を聞きながら、第1回実行委員会を開催しました。計5回に及ぶ実行委員会では、深夜まで松沢会長や植月事務局長と奄美黒糖焼酎やカラオケマイクを片手に、奄美らしい会議開催へ向けて議論を重ねてまいりました。

奄美大島は大小の浜が散在し陸路の無い浜も多く、全域でのウミガメ類の産卵状況が把握できない状態が続いていましたが、2012年から地域住民や行政機関と連携し全島調査を実施しています。調査の拡充やウミガメ保全意識の向上を図るために、中期目標として日本ウミガメ会議の開催も掲げていました。

会議に先立ち、講師の方々のご協力により出前講座を奄美市内8校で実施させて頂きました。砂浜観察では、奄美市役所笠利支所の方々、ウミガメ保護監視員の野崎清志氏、渡連キャンプ場の荒田利光氏に説明させて頂きました。会議では、ジョージ・バラーズ先生を始め、素晴らしい発表を頂き、有り難うございました。食害セッションも実現させて頂きました。ポスター発表では、奄美大島の自然関係団体からも発表を頂きました。

会議初日には、奄美最大の繁華街“やんご”（屋仁川通り）で「やんごウミガメ祭り」を開催し、奇跡的に雨も上がり大盛況となりました。2日目の懇親会では、宝勢丸鯉漁業組合の徳田謙治兄にカツオ・マグロ解体ショーで神業を披露して頂き、徳之島で浜歩きをしている内山五織さんには島唄で盛り上げて頂きました。連日に渡り、2次会、3次会、4次会・・・と、やんごで散財して頂いた皆様に感謝いたします。会議後の家族会議でお小遣いを大幅カットされた参加者も多かったと風の噂で聞きました。

準備、運営、撤収に協力して頂いた学生のみなさん、本当にありがとうございました。前回開催地のカメハマ王国の皆様、次回開催地の一宮ウミガメを見守る会の皆様もご参加いただき、ありがとうございました。次の25年へ向けて、なんとかリレーを繋ぐ事ができました。ウミガメに携わる日本中の方々が一堂に会し、日本のウミガメの上陸産卵情報を共有できる唯一の機会であるウミガメ会議の存在意義を改めて感じました。

多少、燃え尽き気味ではありますが、冬の間はザトウクジラに現を抜かし、来シーズンのウミガ



## Announcement of the 26th Japanese Sea Turtle Symposium in ICHINOMIYA 第 26 回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉のご案内



毎年恒例の日本ウミガメ会議が千葉県一宮町で開催されます。日本ウミガメ会議は日本各地のウミガメ関係者が年に一度日本の何処かのウミガメ産卵地に集まり、お互いの情報を共有するために始まりました。会議という名称ですが、特定の理念や思想を掲げるのではなく、ウミガメという共通の話題のもとに集まり、各地の現状を淡々と話し合います。

第 26 回目は、九十九里浜に面した千葉県一宮町で行われ、初の関東圏での開催となります。今、一宮ウミガメを見守る会と一宮町、当会を中心とした実行委員会によって、会議の準備を進めております。砂浜観察会は、砂浜の生き物観察と洋上から観察の 2 コースとしました。また、鴨川シーワールドによるウミガメとのふれあいコーナーなど、一般の人々も楽しく参加できるような内容となっております。基調講演として地元で長年生物を調査されてきた秋山章男先生にお願いしております。房総半島の皆さまや次世代を担う子どもたちによる活動紹介の時間もあります。もちろん、全国のウミガメの産卵状況のとりまとめ、漂着・混獲状況の報告も致します。

会議参加の案内は、ウミガメ協議会のホームページをご覧くださいませ。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



### ◆第 26 回ウミガメ会議 in いちのみや千葉

期間：2015 年 11 月 27 日（金）～ 29 日（日）

会場：ホテル一宮シーサイドオーツカ

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 10000 番地

参加資格：ウミガメに興味がある人や自然が大好きな人

### ◆会議の流れ

11/27（金）砂浜観察、開会式、基調講演【南九十九里の自然（仮題）】、交流会

11/28（土）房総半島における各地のウミガメ調査者からの報告、口頭 およびポスター発表、懇親会。  
他にウミガメふれあいコーナー・秋山先生のパネル展など

11/29（日）全国の産卵、漂着、混獲のまとめ、口頭発表、閉会式

※会議詳細は随時当会ホームページにて更新します。 <http://www.umigame.org>

●大阪事務局

1. 日本におけるウミガメ関連情報のとりまとめ

2014年シーズン(2013年10月～2014年9月)の日本の産卵・漂着・混獲情報の収集・とりまとめ

第24回日本ウミガメ会議(牧之原会議)の開催

第25回日本ウミガメ会議(奄美会議)の準備

平成25年度 徳島県 自然環境協力員育成委託業務(水辺環境)

環境省モニタリングサイト1000 ウミガメ調査 委託業務

2. 海外との協同

アメリカ合衆国西部太平洋漁業委員会との協働

在日米軍基地における産卵調査およびアセスメント

3. 普及啓蒙活動

徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催 2014/05/25 徳島

●付属 黒島研究所

1. 調査・研究

ウミガメ類の上陸産卵調査(主に黒島西の浜、西表島南岸のウブ浜とサザレ浜)

ウミガメ類の標識放流調査

2. 委託・助成事業 5件

3. 研究・研修での利用者 約50名

4. その他、新聞掲載・テレビ出演 3件、黒島研究所の入館者数 12,717人(2013年10月～2014年9月)、団体の受け入れ 9団体、ウミガメ勉強会年5期間開催、ウミガメニュースレター発行補助、ウミガメ速報の配信

●室戸基地の活動

1. 調査・研究活動

ウミガメ類の上陸産卵調査(室戸周辺)

室戸定置網で混獲されるウミガメ類の標識放流調査(椎名、三津、高岡漁港)

高知県室戸定置網における混獲・廃棄魚問題の解決及び有効利用に向けた研究

2. 四国の各種イベントにてブースを展開

3. その他

鹿児島県野間池におけるウミガメ類混獲調査の補助





平成25年度 特定非営利活動事業収支計算書

特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会

自：平成25年10月1日 至：平成26年9月30日

(単位：円)

科目		金額	
<b>I 収入の部</b>			
1.会費収入		1,792,636	
			1,792,636
2.事業収入			
(1) ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全に関わる事業			
助成金・事業委託費・事業収入		35,529,813	
小計			35,529,813
(2) ウミガメ研究・保護活動の発展および育成に関する事業			
助成金・事業委託費・事業収入		10,018,137	
小計			10,018,137
(3) 日本ウミガメ会議の開催に関する事業			
会議開催協賛金		3,788,378	
小計			3,788,378
3.寄付金収入	寄付金	1,984,303	
			1,984,303
4.雑収入	受取利息 為替差益	966 2,860,507	
			2,861,473
5.その他の収入		11,533,105	
			11,533,105
収入の部合計			67,507,845
<b>II 支出の部</b>			
1.事業費			
(1) ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全に関わる事業			
事業費		10,516,561	
人件費		14,587,408	
			25,103,969
(2) ウミガメ研究・保護活動の発展および育成に関する事業			
黒島研究所運営費 (事業費)		4,339,470	
人件費		6,140,000	
			10,479,470
(3) 日本ウミガメ会議の開催に関する事業			
事業費		1,631,737	
			1,631,737
(4) 会員および関係団体との相互連絡と情報の収集および提供に関する事業			
うみがめ速報の配信、機関誌の作成・配布		61,320	
			61,320
(5) 情報誌の作成に関する事業			
うみがめニュースレターの発行支援		141,050	
			141,050
2.管理費	人件費 その他管理費	3,435,150 20,416,834	
小計			23,851,984
支出の部合計			61,269,530
当期収支差額			6,238,315
前期繰越収支差額			1,658,630
次期繰越収支差額			7,896,945

各地で調査・活動を行っている当会スタッフの近況をお伝えします!

### 黒島研究所の研修を終えて～親子2代にわたる研修～

奈良女子大学理学部 藪田美玖

手足に残った擦り傷と島ぞうり焼けが目に入るたびに、黒島での思い出がよみがえってきます。二十歳の夏、わたしは黒島研究所で研修を受けました。私の父※も、二十歳の時に黒島研究所へ訪れており、その後もチョウチョウウオの研究のため黒島に長期滞在していました。そんな私の父は、いつも黒島のことを第二の故郷のように語って聞かせてくれました。そのため、私も自然と黒島に親しみを持つようになり、いつか必ず黒島に行こうと思うようになりました。

黒島研究所に来てみると、そこは父から聞いていたものと少し違っていました。研究所でありながらも、まるで小さな水族館のようでした。初日は完全に来館者の目線でいた私でしたが、明日から生物の飼育を任せると言われ、ワクワクと緊張感が入り交じった気持ちになったのを思い出します。研究所での生活は目まぐるしく過ぎていきました。頭と体は毎日フル稼働です。職員の方には「この労働がクセになる人もいるんだぞ」と聞かされ、いやいやそんなまさかと初めは疑っていましたが、研修を終えた今ならその気持ちが分かります。私もそのうちの1人になってしまいました。なんてこった。ですが、この変化も悪くない。与えられた課題に向かって自ら進んで考え行動すれば、確実に自分に返ってくるものがありました。人生初めてのフィールド生活を通して学び得たことを、しっかりと消化して自分のものにしたいです。

また、島民の方との交流を通して、黒島を肌で感じる事ができたのも貴重な経験でした。島民の方の演奏を聴かせていただけたこともありました。あの三線の軽快なリズムと凜と響く唄が忘れられません。次は冬の黒島にお邪魔したいです。

※黒島研究所の前身である八重山海中公園センターの研修生の中で、黒島にとけこんでいたのが藪田慎司さんです。当時はオリンピックにでるよりも困難と言われた豊年祭の英雄である浜の走者ウーニーにも選ばれました。20年過ぎた今でも飲み会では慎司さんの話題がつきません。



## 交通事故にあった母ガメの話し

日本ウミガメ協議会 会員 米須邦雄

今夏、沖縄本島北部の大宜味村喜如嘉（おぎみそんきじよか）で産卵のために上陸したアオウミガメが車にはねられて死亡するという事故がありました。

8月16日の午後11前に地元の知人から知らせがあり、約15分後に現場に着きました。事故にあったアオウミガメは、知人らにより車道から歩道に上げられていました。その時のアオウミガメの状況は右上腕部の甲が大きく裂け（割れ）、内臓が飛び出していました。まだ生きていて前足で踏ん張って体を上下左右に動かしてもがき苦しんでいました。1時間ほどそんな状況でしたが午前1時過ぎに動かなくなりました。

事故現場の国道58号線は砂浜との高低差はほとんどなく、幅3メートルほどの国道から浜への通路があり、国道から砂浜までは3メートル弱の距離で、アクセスが容易な状況にあります。今回の事故はたまたま国道と砂浜の出入り口の付近に上陸し、そのまま国道まで進行し、数メートルほど進んだ左側車線、歩道から約1メートルの地点で事故にあっています。事故現場は喜如嘉集落への入り口で三叉路になっていて、三叉路の両側（陸側）に2基の街灯が設置されています。4年前にはすぐ近く（10メートルも離れてない）でタイマイの子ガメが国道を横断し、数匹が交通事故にあっています。沖縄本島北部はウミガメの産卵が多い地域ですが、西海岸に沿って国道58号線が走っており、今回の事故も起こるべくして起こったという印象を持っています。今回の事故がなぜ発生したか要点をまとめると以下の3点になります。

- ① 沖縄本島北部の西海岸沿いは国道58号線が走っており、砂浜と隣接する場所が多い。
- ② 沖縄本島北部は人口が少なく、夜は交通量も少ないため、産卵に適した環境である。
- ③ 沖縄ではアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種の産卵があるが、とりわけアオウミガメやタイマイは浜の奥の植生帯で産卵する傾向があり、国道まで到達する懸念が高い。

沖縄では各地で海岸線の整備がなされており、その設計にバリアフリーやユニバーサルデザインといった考え方が反映されると、よりウミガメが内陸へ到達しやすい環境が増えることが懸念されます。今回のような事故が繰り返されないよう、その対策を考える必要性を感じています。なお、体内にあった卵は沖縄美ら島財団（美ら海水族館）の河津さんに託しました。



轢かれたアオウミガメ



片道切符の上陸跡



アオウミガメの傷の状態

## 高知県カメ宴会

室戸基地 渡辺紗綾

8月24日に高知県のウミガメ関係者が四万十市に集まって情報交換をしました。高知県は東西に長く、ウミガメ関係者が集まるのは大変です。お酒を交えての交流は12年ぶりとのこと。かつては日本ウミガメ会議で高知の顔としてお馴染みだった溝淵幸三さん、高知大でウミガメサークルができれば顧問になる見込みの斉藤知己先生、今回集まった中の長老である春野の自然を守る会の熊沢佳範会長も駆け付けました。始まるまでは、健康上の理由などでお酒が飲めないとおっしゃっていましたが、高知県の風習である献杯・返杯の延々と繰り返され…。今のお酒を飲まない若者世代にも見せたい光景が繰り返されていました。みなさんお歳をとって、次の世代がいないと嘆いていましたが、きっと12年後も元気であると思われます。



## もしもしカメ屋さん♪カメ屋さんよー♪ ～はく製コレクターを訪ねて～

黒島研究所 若月元樹

広島県竹原市、広島空港に近いJR竹原駅近くにお住まいのタイマイのはく製コレクター岡本恭和さんをご紹介します。岡本さんのアパートにあるコレクション部屋にはウミガメのはく製がびっしりと収容され圧巻でした。その数なんと約150個?頭?

タイマイがメインなのですが、非常に珍しいクロウミガメや鱗板が1枚（鱗板の継ぎ目が見えない状態）のアオウミガメ、アカとタイマイの交雑種と思われるはく製もありました。このコレクションは主に沖縄で集めたものだそうです。また、ベトナム関連の商品として使用され、くり抜かれたあとのタイマイの鱗板などもお持ちでした。お気に入りをおプロ野球に例えて1軍、その他を2軍に分けて呼んでおり、いつか1軍で写真集を作ることが夢だそうです。2軍はトレード要員で、他のウミガメはく製のコレクターの方がいらっしゃれば、トレードしてみたいそうです。

岡本さんがはく製を集めるきっかけとなったのは父親が経営していたリサイクルショップで買い取り担当を任された時。おばあさんが持ち込んだ新聞紙にくるまれたはく製を3,000円と査定し、15,000円の値をつけて店頭に出したところ、その日のうちにおじいさんが買っていき衝撃を受けたそうです。「買い取り担当としてウミガメのことを勉強しなければ」と、ウミガメ漁やはく製を作る業者がいる地域を巡り、はく製を買い集めたそうです。ビジネスだったはずの買い付けが、いつの間にか「売りたいくない」という心境になり、現在に至っているそうです。ちなみに岡本さんは泡盛の収集もされています。



## 日和佐うみがめ博物館カレッタ 開館 30 周年記念シンポジウム

日和佐ウミガメ博物館カレッタ 田中宇輝

徳島県美波町の日和佐うみがめ博物館カレッタが今年で開館 30 周年を迎え、8 月 23 日に美波町の日和佐公民館にて「うみがめの楽しいシンポジウム」が開かれました。シンポジウムでは影治信良町長や大浜海岸でウミガメ調査を始めた日和佐中学校科学クラブ顧問の近藤康男氏と教え子らが登壇しました。また、ウミガメ協議会の松沢会長からは日和佐中学校の調査が世界的に見ても長い歴史があり、価値あるものと報告されました。会場には近藤先生の教え子もいらっしやり、海から遠い中学校でウミガメを飼育するあたり、全校生徒約 300 名で海岸から海水をバケツリレーしたエピソードなどが聞けました。観光関係者からも観光とウミガメを今後どのように結び付けて展開してゆくべきか意見も頂けました。うみがめ博物館では 30 周年の節目として、全国各地のウミガメ関連施設の取り組みをご紹介させて頂いています。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



DEARRYUQ 森野、hau'oli (ハウオリ)、アマゾンジャパン(株)、岩本貴美子、ウエノヒデコ、太田英利、大牟田一美、岡本恵子、奥田恭子、(株)エニシル、(株)キープブルー 井上尚志、(株)みや 宮本満次、(株)モイスト、環境パートナーシップエコポイント事務局、北村ひろみ、BLUE OCEAN PROJECT、ギフコ株式会社、串本海中センター、九埜勝家、小嶋絵美、近藤康男、齋藤充、佐藤昌子、佐野純也、サポートセンター翔、四国コココーラボトリング(道の駅日和佐・かめたろう)、清水麻紀、シャディ(株)、白崎英文、関口謹治、添田麗子、田中正視、田辺佐敏、田端重夫、玉岡昇治、照本善造、中里見猛、乃一繁、橋爪真璃子、波多野真樹、坂東武治、福原富士美、古屋憲芳、ビーチアン、松平和子、松本亜芸子、南知多ビーチランド、森川真晴、森谷香取、ヤフー(株)、山田輝一、丸吉日新堂印刷株式会社、宮形佳孝、小林雅人、常見建太、太田 陽菜(ほか5名)。

この他にも、イルカコンサート、日本ウミガメ会議、エコプロダクツ、ひらかたNPOチャリティーイベントにてご寄付を下さった皆様ありがとうございました。

(順不同・敬称略)

## うみがめニュースレターのご案内

うみがめニュースレター(以下U N L)という雑誌をご存じでしょうか? U N Lはウミガメにまつわることを分野に関係なく集めた総合情報誌で、よりディープなウミガメの世界を垣間見ることができます。さらに、専門知識がなくても分かるように、という方針で編集されていますので、一般の学術書よりもかなり読みやすくなっています。

発行は年4回で、うみがめニュースレター編集委員会が行っており、日本ウミガメ協議会ではこれを支援しています。バックナンバーは日本ウミガメ協議会のHP ([http://www.umigame.org/J1/katsudou\\_newsletter.html](http://www.umigame.org/J1/katsudou_newsletter.html)) からすべてご覧いただけます。また、ウミガメ速報をメールで受信されているSTSメンバーを対象に、今後は最新号のダウンロードURLをメールでもご案内していく予定です。

しかしながら財政状況は厳しく、発行を継続していくため、皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。また、切手の寄付も大歓迎ですし、協賛広告も併せて募集中です。詳細はメールで [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org) まで

## Seaturtle goods shop 人気! うみがめの世界 手拭い☆



当会スタッフがデザインしたオリジナル手ぬぐいできました。手ぬぐいにはアカウミガメを中心とした海の生き物たちが描かれています。流れ出る汗をぬぐうのもよし、ちょっとしたウミガメの説明に使うもよし、夏のお供にはおすすめの一品です。

■864円 ■色 白地×紺 ■解説付き

### インターネットでお買い物

うみがめグッズがインターネットショップからご購入いただけます。オリジナルグッズのご購入はもちろん、会費のお支払いやご寄付にもご利用いただけます。お支払いは代引き、各種クレジット、ネットバンキング、当会イーバンク口座等からお選びいただけます。

アクセスはこちら!

<http://seaturtle.shop-pro.jp>

## ◆ STSmembers募集中!

STS(SeaTurtleSupport)membersは、ウミガメと共に生きていける自然、環境について考え、その研究・保護活動に協力する人々の集まりです。日本ウミガメ協議会では、当会をサポートして下さるSTSmembersを随時募集しております。皆様のお知り合いで、自然が好きの方、海が大好きな方、ウミガメに興味をお持ちの方がおられましたら、是非入会をお誘い下さい。

入会金:なし  
年会費:個人会員3,000円、学生会員1,000円  
団体会員10,000円、特別会員100,000円  
会員特典:オリジナル会員証&グッズ、機関誌

seaturtle goods shopからもご入会いただけます。詳細は下記サイトへアクセスしてください。

<http://seaturtle.shop-pro.jp>



## ◆ STSmembers更新手続きについて

会員更新の書類は会員期限終了月に送付させていただきます。会員の皆様のご支援で、ウミガメやそれを取り巻く環境を保全してゆくことができます。更新月を迎えられる会員の皆様は、是非とも更新して頂ければ幸いです。今後とも当会をよろしくお願い致します。なお、すでにご登録いただいている内容に変更がございましたら当会までご一報ください。

### 編 集 後 記

2014年は紀伊半島ウミガメ情報交換会への参加にはじまり、徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を実施、第25回日本ウミガメ会議(奄美大島会議)の開催等、充実した年になりました。アカウミガメ産卵巣の孵化(ふか)・脱出のインターネット中継では多くのニュース番組で紹介され、話題になりました。また今年も「Blue Ocean Project」のコラボTシャツが登場、イルカさんのコンサートへの出展等、様々なイベントで温かいご支援をいただき感謝しております。最後になりましたが、今回は機関誌の発行が遅くなり大変申し訳ありませんでした。これからもウミガメの調査・研究、イベント出展等、ますます活動の場を広げていきますので、よろしくお願いいたします。

デザイン担当:宮原尚子

マリンタートラー(日本ウミガメ協議会機関誌)

発行日 2015年10月31日  
発行 日本ウミガメ協議会

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

電話:072-864-0335 Fax:072-864-0535

URL <http://www.umigame.org> E-mail [info@umigame.org](mailto:info@umigame.org)

